

平成 27 年度
事業報告書

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

学校法人 高知学園

目 次

	頁
I 法人の概要	
[1] 学生生徒等数、法人及び設置学校の所在地	1
[2] 役員・評議員の概要	2
[3] 教職員数	2
II 設置学校の事業報告	
[1] 高知学園短期大学	3
[2] 高知中学高等学校	13
[3] 高知小学校	18
[4] 高知学園短期大学附属高知幼稚園	23
[5] 高知リハビリテーション学院	26

I 法人の概要

本学園は、明治32年、現在の高知市桜井町に開設された「江陽学舎」が前身で、平成27年度には創立116周年を迎えた。創立者は、独学で漢学や英語を習得された信清権馬先生（南国市出身）である。

学園の沿革をたどると、大正8年に城東商業学校が開設され、川島源司先生（昭和37年に初代学園長に就任）が昭和26年に城東高等学校、城東中学校の学校長に就任された。昭和27年には幼稚園を設置し、昭和31年には校名を高知高等学校、高知中学校に改称、昭和32年には現在地に移転し、同年に小学校を設置して、総合学園としての基礎が確立された。

昭和42年に短期大学を、昭和43年には私学では全国で最初のリハビリテーション学院を設置、現在では、幼稚園から小学、中学、高校、短大、リハビリテーション学院までの6部門で運営し、あわせて2,846人の児童、生徒、学生たちが学んでいる。

近年、少子化が進む中で経営の安定を図り、時代のニーズを踏まえた教育活動を充実強化するためにも、学生・生徒の確保は重要であり、全学校が共同で実施する募集イベント(GAKUEN Festa)の開催をはじめ各学校が創意工夫を凝らし、募集活動に努めた。

[1] 学生生徒等数、法人及び設置学校の所在地

法人・学校名	学 科 等	学生生徒等数 平成27年5月1日現在	住 所
学校法人高知学園	法人本部		高知市北端町100
高知学園短期大学	生活科学学科	150	高知市旭天神町292-26
	幼児保育学科	168	
	医療衛生学科	226	
	医療検査専攻	(142)	
	歯科衛生専攻	(84)	
	看護学科	230	
	応用生命科学専攻	12	
	地域看護学専攻	20	
	小 計	806	
高知高等学校	全日制普通科	577	高知市北端町100
高知中学校		449	高知市北端町100
高知小学校		313	高知市北端町100
高知学園短期大学 附属高知幼稚園		89	高知市北端町100
高知学園短期大学 附属認可外保育所		11	高知市北端町100
高知リハビリテーシ ョン学院	理学療法学科	292	土佐市高岡町乙1139-3
	作業療法学科	164	
	言語療法学科	145	
	小 計	601	
	合 計	2,846	

[2] 役員・評議員の概要

1) 役員・評議員数（平成27年5月1日現在）

理事	10名
監事	2名
評議員	21名

2) 理事会・評議員会の開催状況

・理事会

第1回	平成27年5月29日
第2回	平成27年10月16日
第3回	平成28年1月28日
第4回	平成28年3月24日

・評議員会

第1回	平成27年5月29日
第2回	平成27年10月16日
第3回	平成28年1月28日
第4回	平成28年3月24日

[3] 教職員数

平成27年5月1日現在

学校名	教 員		職 員		合 計
	専 任	兼 任	専 任	兼 任	
学 園 本 部	0	0	7	2	9
高知学園短期大学	53	126	14	12	205
高知高等学校	43	8	3	12	66
高知中学校	31	6	1	2	40
高知小学校	18	5	1	5	29
高知学園短期大学 附属高知幼稚園	5	5	0	4	14
高知学園短期大学 附属認可外保育所	0	3	0	0	3
高知リハビリ テーション学院	28	76	9	11	124
合 計	178	229	35	48	490

II 設置学校の事業報告

[1] 高知学園短期大学

1 事業の概要

「世界の鐘」の呼びかける平和と友愛の精神を柱とし、自由と規律を尊び、真理を深め、創造性と情操を培い、広い教養と健全な社会性を身につけた短期大学士の学位を有する専門的職業人を育成するという本学の基本方針のもと、本年度は、10項目の重点目標を定め、その達成のため取り組んだ。

- (1) 入学者の確保に向けた施策の実施
- (2) キャリア形成教育の充実
- (3) 文部科学省等の外部資金の獲得
- (4) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク等の活用により FD（教員能力開発）SD（事務職員能力開発）の活性化を図り教職員の資質指導力の向上
- (5) 短期大学の中長期的な将来構想についての調査検討
- (6) 国家試験対策を強化し、受験者全員の合格を目指す
- (7) 学習効果を高めるための施設・設備の充実
- (8) 震災対策等の充実
- (9) 地域貢献活動の活性化
- (10) 高等教育機関（大学・短大・高専）との連携強化

2 事業の実績

- (1) 入学者の確保に向けた取り組みでは、学生支援課と入学試験募集委員会との有機的な連携のもと教職員の協働体制により事業を展開した。年間行事計画により、積極的な広報活動を行っている。年間4回開催のオープンキャンパスでは年度毎にテーマを掲げ、それに沿って各学科・専攻で企画検討し内容の充実を図る工夫、時期を見極めた効果的な学校訪問、教職員が担当する高校での講演活動や説明会、高校の行事への積極的な参加等を通じて本学の理解啓発に努めた。

入学者は、本科 281 名、専攻科は、応用生命科学専攻 11 名専攻科地域看護学専攻 22 名の入学者となり、総定員 330 名を 16 名下回る結果となった。原因としては、生活科学学科で 33 名の定員割れを起こしたことによるものであり、次年度の対策の強化が必要である。

- (2) 本学学生のキャリア形成は、必要不可欠であることから、平成 23 年度以降も継続しており、24 年度からは「キャリア形成演習」を生活科学学科・幼児保育学科が履修し、27 年度からは看護学科を加え、次年度より全学科に拡大を図ることとしている。本学で作製したキャリアノートの活用、キャリア形成セミナーの開催や就活講座、学生のマナー指導等に積極的に取り組み充実を図っている。また、各学科が中心となって、卒業生を講師に招いての「ようこそ先輩」を開催・拡充を図り学生の将来の生き方や職に対する意識を高めるなど各学科の特色を生かしたキャリア形成に効果的であった。

- (3) 独立行政法人日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス（研究成果の社会還元・普及事業）「お家にナースがやって来る！～これからの時代のナースの魅力って？～」、独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成金「臨床検査を覗いてみよう」に採択され、県内の中学生・高校生を対象に開催した。この事業は、学生のキャリア形成に資するものであり、キャリア教育の一環として大いに活用でき、その成果も大きい。
- (4) 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」の活用による教職員の資質・指導力の向上に関しては、学内の研究授業の実施（年間 11 回）や講演会の実施、愛媛大学等の主催する研究会・フォーラムへの参加を通じて所期の目的達成の努力を継続した。
- (5) 国の教育再生会議、中央教育審議会答申に対する文科省や日本短期大学協会、東京都内の私立大学への訪問等情報収集に努め、調査研究を実施している。
- (6) 国家試験対策では、本来の授業の充実と補習活動の充実を図り各学科（医療衛生学科医療検査専攻及び歯科衛生専攻、看護学科、専攻科地域看護学専攻）とも 100%を目指し取り組んだ。27 年度の合格率は、専攻科地域看護学専攻の保健師の国家試験は 4 年連続 100%、歯科衛生専攻でも歯科衛生士 100%であったが、他の学科は各試験とも全国平均を少し上回る状況であり目標は達成せず、さらにきめ細かな指導対策を実施する必要がある。
- (7) 学習効果向上のための施設・設備の充実では老朽化した施設設備の改修に積極的に取組み医療検査専攻の実験実習室の機器の整備、教室の照明機器の照度不足に対応するための照明設備の充実等教育環境の改善も前進した。更に学生・生徒の送迎による危険防止対策として、送迎用駐車場の新設や身体障害者用駐車場の整備等行った。今後も計画的に施設設備の改修や更新を行いより安全な教育環境としたい。
- (8) 震災対策等は、震災対策委員会を中心に学生・教職員の防災意識の強化を図るための防災講演会、防災訓練を実施している。また学内の防災設備の点検や、防災機器備品等の整備も計画的に行っている。学生・教職員が必携としている防災マニュアルについても次年度に向けて拡充を進めていくこととしている。
- (9) 高知県の三大学、学園短大、高知高専の高等教育機関と産業界で構成する産学官民連携センターの活動に積極的に参画するとともに地域貢献に関する事業の取り組みを進めてきた。これまで幼稚園・小学校・中学校・高等学校で実施してきた健康教育も継続拡充している。また新たに旭地域の高齢者を対象として、健康に対する意識の醸成を目的として各学科・専攻の特色を生かした「いきいき健康フェア」を開催し旭地域だけでなく、広域からの参加を得て好評を博した。今後更なる地域貢献が期待されている。
- (10) 県内高等教育機関の学長・校長で「高知學長会議」を組織し高等教育機関としての教育や地域に貢献する人材づくり、各校の所有する施設設備の共同利用、災害時の連携についての意見交換会を行っている。今後も更に連携し充実した教育環境の確保に努める。

3 募集活動

(1) 入学者選考

昨年度と同様に 9 月の自己推薦選考 A から 3 月の試験選考 B までの 6 種類の選考と社会人選考 3 回、専攻科 2 回の選考を予定どおり実施できた。

(2) オープンキャンパス

27年度は6月から9月にかけて4回実施した。オープンキャンパスが受験者増に直接繋がることから、積極的に広報活動を展開するとともに保護者を対象にした保護者のための講座を設ける等、内容の充実に更なる努力を行い参加者の増加に努めた。その結果、参加生徒1,012名、参加保護者291名、全体では1,303名の参加を得た。

(3) 高校訪問等

本学の学生募集入試委員会の教員と本学の学生支援課担当職員の協働体制により効果的な高校訪問、高校主催の説明会、高校の学校行事や講演等積極的に参加し、高校と本学の信頼関係を構築しながら募集活動を展開した。また本学主催の高校教員を対象とした入試説明会を本学で実施し、多くの教員の参加を得た。更に本年度からは、県外実施する進学説明会等へも参加している。

(4) 高校の進路指導に関する授業等

各高校の主催する進路指導講座やキャリア形成講演会に参加し、直接高校生に授業を行う模擬授業の機会の増加やPTA活動の一環として保護者を対象に行われる説明会にも講師として招聘される頻度も増加し、生徒・保護者両面の対策を実施した。

(5) 高知高校との連携

フェロシップによる対策を実施するために高校との連携を密にし、高知高校の2年生は授業見学とオープンキャンパスへの参加、3年生は授業参加及びオープンキャンパスの参加等を行い、本学に対する理解を深めるとともに進学意欲を高めることに努めた。

(6) 広報計画実績

本県に対する卒業生の貢献度や就職率の高さを強調し「社会にいちばん近い大学」としてのイメージづくりに努めるとともに、高校生の目線でのアピールを目的として「スイッチオンガクタンスタイル」のキャッチコピーを加えて本学の特色を強調してきた。新聞、テレビ、ラジオ等の広報活動は予算内でより効果的に展開できた。

(7) 募集実績

平成27年度募集実績

学科・専攻	出願者	合格者	入学者
生活科学学科	50	49	47
幼児保育学科	99	90	83
医療衛生学科 医療検査専攻	69	55	49
医療衛生学科 歯科衛生専攻	38	38	36
看護学科	114	79	66
専攻科応用生命科学専攻	15	11	11
専攻科地域看護学専攻	29	22	22
合計	414	344	314

4 進路指導実績

(1) 就職指導

各学科の就職委員と学生支援課、キャリアセンターの緊密な連携による学生指導やキャリア形成セミナー等の講演活動による意識の向上、就職資料の充実、IT関連の整備等を通じて、学生達の職業意識の高揚を図り、学生が積極的に就職活動に取り組む姿勢が向上した。

また、専任職員の配置による求人開拓も行うなど就職希望者全員の就職に向けて努力を重ねた。
その結果、7年連続しての100%の就職率となった。

(2) 進学指導

本学の専攻科への進学者33名、他大学への編入学6名、進学者は1名。

(3) 平成27年度卒業生の進路状況

学科・卒業生数	職種	業種	就職者数	備考			
生活科学学科	栄養士	病院等	4	進学 : 6 その他 : 6 家庭 : 1			
		集団給食等	35				
	教員等	学校栄養士	1				
	事務職員等	金融・一般企業等	10				
		医療事務	3				
上記以外（保健所・保育所）		2					
卒業生数	68	就職希望者数	55	就職決定者数	55	就職率	100%
幼児保育学科	保育士	保育園等	56	進学 : 1 その他 : 2 家庭 : 1			
		幼稚園	18				
	事務職員等	一般企業等	3				
	上記以外（施設支援員）		0				
卒業生数	81	就職希望者数	77	就職決定者数	77	就職率	100%
医療衛生学科 医療検査専攻	臨床検査技師	病院等	10	進学 : 11 その他 : 5 家庭 : 0			
		検査センター	8				
	事務職員等	一般企業等	3				
	上記以外（保健所等）		7				
卒業生数	44	就職希望者数	28	就職決定者数	28	就職率	100%
医療衛生学科 歯科衛生専攻	歯科衛生士	歯科医院	17	進学 : 0 その他 : 2 家庭 : 0			
		病院・施設	0				
	上記以外（一般企業等）		0				
卒業生数	19	就職希望者数	17	就職決定者数	17	就職率	100%
看護学科	看護師	病院	46	進学 : 21 その他 : 1 家庭 : 0			
		施設等	0				
	教員等	養護教諭	1				
	その他（医療関係）		3				
卒業生数	72	就職希望者数	50	就職決定者数	50	就職率	100%
合計 卒業生数	284	就職希望者数	227	就職決定者数	227	就職率	100%
専攻科 応用生命科学専攻	臨床検査技師	病院等	9	進学 : 1 家庭 : 0			
		検査センター	2				
修了者数	12	就職希望者数	11	就職決定者数	11	就職率	100%
専攻科 地域看護学専攻	看護師	病院	16	進学 : 0 その他 : 0 家庭 : 0			
	保健師		2				
	教員（養護教諭）	学校等	2				
	上記以外		0				
修了者数	20	就職希望者	20	就職決定者	20	就職率	100%
総計				進学 : 40 その他 : 16 家庭 : 2			
卒業(修了) 者合計数	316	就職希望者数	258	就職決定者数	258	就職率	100%

*備考のその他とは、専門学校・各種学校・職業訓練入学。科目等履修生・卒後研修生。

5 人事計画実績

- (1) 平成 27 年度の専任教員は、平成 26 年度と同様の 57 名となった。
兼任教員は、137 名となった。
- (2) 専任職員は、18 名となった。

6 教育研究実績

(1) 生活科学学科

1) 教育実績

- ① 食・栄養に関わる理論と技術を多様な講義や実習、演習を通じて、きめ細かに指導し習得させるとともに、食・栄養に関わる医学的知識を備えた栄養士を育成するために、各教員は授業・実習・実験の中で工夫・改善に努めた。

また、調理学実習では調理技術向上を図るとともに、不得手な学生に対しては個別指導による補講を行った。その結果、給食管理実習Ⅰ・Ⅱ及び学外実習反省会において、受け入れ施設担当の先生方より学生の実習態度、技能について概ね良い評価が得られた。しかしながら、やや積極性に欠けるとの指摘があったことから、事前オリエンテーション等で具体的な指導が必要である。

貴重な現場経験が職業意識を高めることから、給食管理実習においては全学生が2週間、実施するようにした。

- ② 栄養士実力認定試験（主催：一般社団法人全国栄養士養成施設協会）では、認定証A判定の学生は、平成26年度の28%から21.2%に低下しており、原因と対策が必要である。しかしながら、B判定の学生は41.8%から63.5%に、C判定の学生は28.4%から21.2%に低下しており、A,B判定においては26年度の35.9%に比較し、27年度は39.4%と若干高くなっていることから、指導方法及び、試験対策の改善と工夫によりA判定に導かせるよう努める。
- ③ 在学生及び卒業生に管理栄養士国家試験準備講座の受講を促し、専門性を高め管理栄養士取得につなげるための講義を行った。
- ④ キャリア教育の一環としてキャリア形成演習の受講を促し、多様な進路選択に対応できる学生の育成に努めた。

2) 研究実績

積極的な学会発表や著書、講演、セミナー講師等の依頼により、27年度の研究業績は、著書9編、学会発表6編、その他講演など48編であった。平成28年度は教育に関連づける研究を行い、質の高い学会発表、論文作成に努めるとともに、各教員が専門性を生かした研究業績につなげたい。

(2) 幼児保育学科

1) 教育実績

- ① 幼児保育学科で取り組んでいるポートフォリオ（学習活動の指導記録）を通して、自分の活動の振り返りと自己課題の発見および今後の目標の設定が明確になってきた。それに伴い、特に学外実習で取り組むべき課題に向けて主体性が高まり、平成26年度に比べると実習園からも肯定的な評価が多かった。

② 実習の事前事後指導で記録のまとめ方を重点的に指導し、また1年次には附属高知幼稚園でのボランティア活動を取り入れた結果、考察する力に成長が見られた。実習園からも、記録については高い評価を得る学生が増加した。

③ 幼保一体化が進む中で、これまで通り幼稚園教諭、保育士資格の両免許・資格取得とそれぞれの職責の重要性を認識するよう努めた。その結果、卒業生81名中80名が両免許・資格を取得した。しかし、1名の学生が、本人の意向により両免許・資格を取得しないまま卒業し、全員の両免許・資格取得を達成することはできなかった。

2) 研究実績

平成27年度は著書2件、論文発表6件、学会発表4件、作品発表3件、その他1件を行い、それぞれの分野の専門性を高めるよう実践した。

(3) 医療衛生学科

(3-1) 医療検査専攻

1) 教育実績

① 学内教育において実践力をもった臨床検査技師を育成するために各教員が教材の開発と教育の工夫に努めた。また、臨床施設の協力のもと病院見学実習(1年次)、夏期見学体験実習(2年次)、臨地実習(3年次必修)を実施したほか、高知県臨床検査技師会と提携した学生支援活動(2年次)2回開催、さらに各種研修会、検査技師会行事への参加を推奨した。

② 臨床検査技師国家試験は、各教科の国家試験対策に加えてチーム指導を意識しておこなった。その結果、40名が受験し合格者は31名(合格率77.5%)であった。

③ 在学中に取得できる各種資格についても受験を勧め、模擬試験等を実施した。その結果、健康食品管理士認定試験(3年次)は合格者9名(39.1%)であった。また中級バイオ技術者認定試験(2年次)は合格者23名(63.8%)、さらに上級バイオ技術者認定試験に1名が合格した。

④ 臨床検査技師の高度化への対応として学生への進学支援をした結果、専攻科応用生命科学専攻に11名が進学した。

⑤ 学生の将来像を明確にし、モチベーションを高めるために、医療検査専攻の全学生を対象としたキャリア形成を意識した行事を開催した。前期に臨地実習合同反省会(9月)、後期には各授業(微生物学、臨床生理学、臨床化学、臨床血液学、一般検査学)において臨床検査技師を招き「臨床現場における臨床検査の魅力とやりがいについて」講演会を開催した。また3月には在学生オリエンテーションの一環として「先輩から学ぶ」を実施した。なお、臨地実習宣誓式は3月末に実施していたが時期を見直し平成28年4月に移行して実施することとした。

⑥ 学習成果を高めるために、教員がFD活動に積極的に参加し、テキスト作成、ルーブリック相互評価の導入、アクティブラーニングなど可能なものから授業に取り入れ改善に努めた。また日本臨床検査学教育学会に参加し、全国の優れた実践から学び導入した。

⑦ 基礎学力の向上を目指して希望者(1,2年)に計算塾を開催した。また、専門科目への関心を高めるため、希望者に年間をとおして研究会を開催した。

⑧ 健康食品問題、リレー・フォー・ライフ(がん征圧を目指すチャリティ活動)、骨髄移

植推進事業などの啓蒙活動に参加し、健康・医療分野で学生と共に社会貢献した。

- ⑨ 昨年に引き続き独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」に採択され、高校生（参加 45 名）を対象に、体験実習「臨床検査をのぞいてみよう！」の事業を実施し、臨床検査技師の職業について理解を広めた。

2) 研究実績

- ① 医療検査専攻教員の研究発表は論文 3 編、学会発表 9 題であった。
- ② 研究活動の活性化を図るため医療検査専攻研究セミナーを 9 月に開催した。
- ③ 外部資金獲得については日本学術振興会科学研究費助成事業へ 2 名が申請したが、研究費獲得には至らなかった。

(3-2) 歯科衛生専攻

1) 教育実績

- ① 2,3 年生の縦割りのグループを作り、「健康教育」の授業である歯みがき指導実習に参加させた。また、この授業を通して、幼児・児童・生徒等への年齢層にあった対応等、学習効果がみられた。指導数および人数は幼稚園・保育園（17 園 532 名）小学校（24 校 2001 名）中学校（6 校 615 名）特別支援学校（4 校 99 名）であった。また、歯と口の健康週間行事では、高知市・高知市歯科医師会主催の「歯っぴいスマイルフェア 2015」に協賛し、3 年生は「手形コーナー」に 2 年生は「ステージイベント」に各班で作成した媒体を用いて歯みがき習慣の啓発事業を展開した。
- ② 医療人としての自覚と倫理観については、継承式および職域の異なった先輩歯科衛生士との話しを聴講することで理解を深め自覚に繋がった。
- ③ 歯科臨床実習においては、事前に高知県歯科医師会と実習内容の基本方針等の意見交換会を開催し連携を強化した。
- ④ キャリア教育の一環として実施した「就職フェア」では、47 歯科医院 108 名の参加のもと実施され、「必要とされる医療人」等面談を行うことにより 2 年生は就職に対する士気の高揚に 3 年生は目前の就職に対する意識づけとなった。
- ⑤ 全科の取組みである「健康教育演習」は、幼児対象（1 園）では歯みがき指導、高齢者対象（1 施設）では「口腔体操」、平成 27 年度初開催「イキイキ健康フェア in 学短」では「顔じゃんけん」「舌体操」等を実施し、他科と連携して媒体づくりを通して知識および口腔機能の向上の必要性を共有した。また、実践を行うことにより各年齢にあつたコミュニケーションスキルをアップすることに繋がった。
- ⑥ 歯科衛生士国家試験は、18 名受験し合格者は 18 名（合格率 100%）であった。（全国平均 96.0%）

2) 研究実績

研究実績は、著作数 3 編、論文 5 編、学会発表 11 編、その他講演等 35 編であり、歯科衛生専攻教員の専門とする内容を分担し、講演を行った。

(4) 看護学科

1) 教育実績

- ① 教授力向上により質の高い学生を輩出し、質の高い学生の維持・確保につなげることを目的として、学生の主体性と社会性を高めるための教育技術向上のためのプロジェクト

を立ち上げた。平成 27 年度は愛媛大学の仲道雅輝氏を招聘し、看護学科・専攻科地域看護学専攻教員 7 名及び他学科教員 3 名が参加し、ID 理論を使った授業計画の分析を行った。それぞれの教員がメリルの第一原理や ARCS 動機づけモデル（教育活動の効果を高めるための手法、教育理論）を用いて授業設計を見直し、授業改善への取り組みにつながってきている。次年度も継続して実施する予定である。また、昨年度より実施しているフィールドワークでは、8 施設の協力を得て、1 年生の春休みに実施した。今年度は特に、ポスト・フィールドワークにおける教員のファシリテーターとしての役割を徹底し、学生が現象の抽出と新たな自己の課題を発見できるよう努めた。

- ② 11 月に実習施設連絡調整会議、また、各領域実習終了後に各施設において実習指導者連絡会を実施した。実習施設連絡調整会議では、本学の教育改善の取り組みについて紹介し、実習施設と教員との強力な連携がとれるよう、互いの課題と課題解決のための工夫についての意見交換をした。前期・後期の実習前の臨床講師との意見交換会では、学生の現状の共有と課題について議論できた。
- ③ キャリア形成支援の一環として、看護専門職として取り組む決意を表明する戴帽式（6 月）を実施した。また、臨床や地域、学校現場で活躍している卒業生を招き、ようこそ先輩（3 月）を実施した。学生のアンケート結果からは、自身の将来への展望を描き、今やるべきことは何かと再考する機会となっていた。
- ④ 「高知県立若草養護学校修学旅行介助ボランティア（9 名参加）」「リレー・フォー・ライフ（26 名参加）」「第 5 回キッズ☆バリアフリーフェスティバル（障害児向け福祉機器展）（15 名参加）」等のボランティア活動へ参加した。事後のレポートから、参加者はリアルな体験を通して本学が提唱するキャリア形成基礎力の中でも“感じ、広げる力”、“前に踏み出す力”“チームで働く力”の醸成につながっていることが示唆された。
- ⑤ 看護師国家試験は、看護師国家試験担当教員を中心に各専門領域担当教員が協力し取り組んだ。実力確認のため定期的に全国模試を実施し、成績の動向の把握を行い必要に応じ個別面接や保護者面接を実施した。また、学年全体を対象とした講義と学内教員作成の模擬テストの反復指導と、全学生チューター制にて徹底した個別強化学習やメンタル面でのフォロー体制を整え取り組んだ。結果として、72 名受験し合格者 68 名（合格率 94.4%）であった（全国平均 89.4%）。

2) 研究実績

- ① 著書 1 編、論文 2 編、学会発表 4 編、その他 1 編であった。
- ② 本年度は、教育改善を中心に取り組みを行っており共同研究体制の構築には至らなかった。科学研究費への申請を 1 名が行ったが、研究費獲得には至らなかった。

(5) 専攻科応用生命科学専攻

1) 教育実績

平成 27 年度入学者 12 名全員が専攻科を修了し、大学評価・学位授与機構から学士（保健衛生学）の学位を取得した。

また、「バイオ上級技術者認定試験」を 12 名が受験し、11 名が合格した。

2) 研究実績

（本科に含む。）

(6) 専攻科地域看護学専攻

1) 教育実績

- ① 知識と具体的な現象を統合する力を育成するために科目設定した公衆衛生看護実践論を、学生の理解度に合わせてステップアップできるよう指導範囲や指導方法を改善した。
- ② 修了研究Ⅰ・Ⅱのルーブリックを作成して、大学改革支援・学位授与機構による看護学学士取得に向けた研究指導の目標を明確にし、教員間での共有を図った。
- ③ 公衆衛生看護学実習施設（福祉保健所、市町村保健センター）との綿密な調整を重ねて実習受け入れ先の確保をし、巡回指導を入れながら実習を円滑に実施することができた。また、昨年度開拓した産業保健分野での実習の受け入れ先で引き続き見学実習を実施し産業保健についての理解を促すことができた。
- ④ 養護教諭就職対策を早期から行い、受験者2名のうち1名の合格につなげることができた。
- ⑤ 保健師国家試験は、年間計画のもと、業者別模擬試験（4回）、学内での模擬試験、領域別重要ポイント講座、業者による集中講義（2日）を実施した。また、年間を通して面談を行うとともに、得点率の低い科目の強化学習（7回）、個別学習指導（随時）も行った結果、20名全員が合格し、合格率100%を達成した。

2) 研究実績

（本科を含む。）

7 図書館

平成27年度は224日開館し、延べの貸出人数は3,598名、貸出冊数は6,805冊であった。また、既に保存価値を失った図書を9,008冊除籍し、書架のスペースを広げることができたことから、次年度以降、叢書類の購入が可能な状況となった。

(1) 学習環境整備

- ① 資格取得を目指した学生を支援するため、平成27年度も10月から3月まで開館時間を延長し、土・日曜、祝日も開館した。
- ② 利用者用のパソコンを4台増設し、パスファインダー（資料、情報の調べ案内）は図書館システムの入替えに伴い、蔵書検索 OPAC (My Library) を新たに導入した。
- ③ 蔵書点検は学業等に支障のない3月期に実施した。

(2) 図書システムの入替え

平成27年度に入れ替えを完了し、稼働させている。貸出、返却などのスムーズな処理とともに、統計資料も使いやすい等、利便性は向上している。

(3) 高知学園短期大学紀要第46号の発行

平成28年3月に発行した。投稿数の少なさはここ数年来の課題であるが、今号は2編のみであり、更なる改善が求められる。

(4) 図書館報「らぶっく」の発行

6月と10月に第17号、第18号を発行し、新着図書の案内はじめ新システムの使い方や開館時間の延長など、時宜を得た情報を発信することができた。

また、オリエンテーション用に「らぶっく+」として利用案内号を発行した。

(5) 学生図書委員の活動

学園祭において「おはなし会&ぬいぐるみおとまり会」を企画、運営した。

[2] 高知中学高等学校

1 事業の概要と実績（生徒募集及び教育・研究実績を含む）

個々の進路選択に応じた教育課程を編成し、教科・課外活動を通じて個性を伸ばし、信頼される人間育成を目的とし、平成27年度は7項目の重点目標を定め、その達成にむけ取り組んだ。

(1) 学校の魅力化を図る取り組み

活性化プロジェクトチームの活動を中心に、募集活動をはじめとして、これまでの取り組みを再検討し、学校の魅力化を図るとともに、信頼される学校経営を目指した。

① 募集活動の実績

生徒募集活動においては、学校案内及び募集要項を高知市内及び周辺地区の小中学校や県内中学校・学習塾に送付するとともに、中学校挨拶回り・県内塾回りや公立中学校進路説明会へ参加をした。

中学オープンスクールを6月に開催した。また、中高学校説明会は10月に地区別学校説明会を県内5会場で開催し、11月に本校で開催した。今年度から高知小学校児童のためのオープンスクールを10月に開催した。

また、年間を通じホームページを活用して学校行事や日々の部活動の様子などを発信した。

学期ごとの募集活動の状況

1 学期	学校案内の部分改訂 県内公立中学校主催の学校説明会に参加 チャレンジテニス開催（4/20 他 3 学期まで全 18 回） 本校卒業生公立小中学校教員との交流会開催（6/27）、本校退職教員による広報活動 中学オープンスクール開催「小学生のためのオープンスクール」（6/28） （体験授業（英語・理科・家庭・美術）・部活体験） 参加者 83 名 夏休み 3 夜連続天体観測会（関勉氏の講演会を含む）（7/22～24） チャレンジイングリッシュ開催（7/29 他全 9 回） 第 7 回私学フェアに参加（8/2）
2 学期	県内公立中学校及び学習塾へ学校案内・募集要項等の送付 公立中学校及び学習塾を訪問 GAKUEN Festa 2015 での募集活動（9/23） 地区別学校説明会（土佐市 10/1、須崎市 10/2、南国市 10/5、安芸市 10/14、四万十市 10/16） 5 会場 高知小学校児童のためのオープンスクール（10/20）

2 学期	学校説明会開催（入試説明会、部活・すらら体験）（11/1） 参加者 中学 102 名、高校 58 名
3 学期	学習塾訪問 高校推薦入試（1/14）・一般入試（1/21, 22）（本校、安芸、四万十の 3 会場） 中学入試（2/20, 21） 中学Ⅱ期入試個別説明会（2/23） 中学Ⅱ期入試（2/27）

② 入試結果

中学校では前年度並みの志願者があり、入学者は前年度対比 2 名減の 146 名となった。

高校では一般入試志願者が前年度より減少したが、内部進学者数が前年度より 12 名増したことなどにより、入学者は前年度対比 5 名増の 214 名となった。

(2) 教員の指導力向上と授業改善の取り組み

教員の指導力向上の取り組みとして、県内の教育拠点校研究発表会等に参加、また、設置する学校種や規模が本法人と類似の追手門学院中学高等学校に部長や学年主任を派遣し、2 日間にわたり同校の取り組みを学んだ。

授業改善の取り組みとして、より生徒にとって理解度に応じた授業となるよう、特に理解度に差が生じる数学において、中 2、3 の特進コース生徒を対象に理解度別・習熟度別授業を実施した。

また、授業評価アンケートは、中学校は学期ごとに年 3 回、高校は 6 月と 11 月の年 2 回実施し、教員の授業内容や方法等の改善に努めた。

主な研修会・訪問研修

<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程拠点校研究発表会（愛宕中） 5 名 ・「ことばの力養成プロジェクト推進事業」重点校研究発表会（城北中） 4 名 ・高知市道德教育地域連携会議研究発表会（介良中） ・教師塾事業「教科指導力向上研修Ⅱ」（追手前高、高知西高） 4 名 ・追手門学院中学高等学校への教員派遣研修 5 名 ・全国私立中学高等学校私立学校特別研修会 外国語（英語） 2 名 ・大学入試対策講座「基礎からめざす入試対策」河合塾 ・e ラーニングを活用した反転授業・アクティブラーニングの実践授業視察（数学）2 名 ・高知県算数数学教育研究（南国市）大会 ・高知市教育研究会教科部会（小中）外国語
--

- ・高知県スクールカウンセラー等研修講座
- ・人権教育研究会

(3) 社会人としての生きる力を育てる取り組み

高校では高大連携による授業等が4年目を迎え、進路講演会、大学講義・職業体験講座、大学訪問を実施した。中学校では、命の大切さ・平和学習・職業講演・大学見学などを実施した。

また、自尊感情を大切にすることやモチベーションを育てることを目標に取り組んでいる「朝の読書」については、中高ともしっかり根付き、落ち着いた学校生活が始まるようになり、学習意欲の向上にもつながっている。

① 外部講師による講演会、学習会

	中学校	高校
1学期	非行防止講演会（中1） 高知警察署 職業講演（中3） 各職業人 携帯電話マナー指導（中1） 高知市少年補導センター	進路講演会（高2、3） マイナビ（高2）、ベネッセ（高3） 薬物乱用防止講演会（高1） 県警本部 服育講演会（高1） （株）チクマ
1学期	租税教室（中1） 高知税務署 人権教育公開授業（全） 人権啓発センター いじめ防止授業（中1） 少年サポートセンター 仕事講演会（中1）	人権教育公開授業（全） 人権啓発センター 学園短大・高知リハビリ説明会（高2、3） 県内大学訪問 高知大、県立大、工科大 県外大学訪問 龍谷大、京産大、佛教大 京都外大、関学大
2学期	保護者講演会（全） 心の教育センター 人権教育公開授業（全） 人権啓発センター 性教育グループ討議（中2） 高知大ピア部 防災についての講演（中1） 本校教員 交通マナー・ルール講演会（全） 高知警察署	保護者講演会（全） 心の教育センター 心の教育講演会（高1） 澤田 敬（医学博士） 大学講義・職業体験講座（高1、2） 高知大、県警他 心の教育講演会（高2） 心の教育センター 進路講演会（高1） ベネッセ 学園短大・高知リハビリ説明会（高2、3）

3学期	人権教育公開授業（高1、2） 人権啓発センター 進路講演会（高1） マイナビ
-----	---

② 生徒の活動

	中学校	高校
1学期	遠足 宿泊研修（中1）2泊3日 大方 修学旅行（中2）3泊4日 沖縄 QU検査 一斉清掃・ワックスがけ 校舎内外・教室 防災教育	遠足 QU検査 一斉清掃・ワックスがけ 校舎内外・教室 防災教育
2学期	運動会 文化行事 合唱コンクール 学園祭 QU検査 一斉清掃・ワックスがけ 校舎内外・教室	学園祭 クラスマッチ 春野・市営・学校 QU検査 一斉清掃・ワックスがけ 校舎内外・教室 防災訓練
2学期	防災訓練 勉強合宿（5名）2泊3日 いの	勉強合宿（30名）2泊3日 いの
3学期	教室の壁の塗り替え	スキー研修（高2）4泊5日 軽井沢スキー場 教室の壁の塗り替え 勉強合宿（15名）2泊3日 高知会館
通年	東日本大震災復興支援募金活動 ペットボトルキャップ回収活動 各種検定（英検・漢検・硬筆） こども県展・各種作文コンクール出品	

③ その他 三者協力会（生徒・保護者・教員）による旭地区清掃、校舎内外清掃活動

(4) 教科指導の改善と学力の向上の取り組み

中高とも 5 教科の参考書・問題集を持たせ、教科指導の体系化を進めるとともに、中学では、基礎学力の定着及び学習習慣の定着を促した。高校では、放課後及び休業土曜日の補習・課外授業の充実に取り組んだ。さらに、進路実現に向けて勉強合宿を中高共に実施した。

また、英語教育の取り組みの一環として、生徒に英検受験を推奨しており、中1では5級（中1修了程度）以上に約97%、中2では4級（中2修了程度）以上に約60%、中3では3級（中3

終了程度)以上に約37%が合格した。

(5) 人権教育・特別支援教育に関する意識の向上の取り組み

人権教育を本校教育の礎と位置づけ、オリエンテーションを利用した「クラスのルール・目標づくり」、「心の教育講演」や「デートDV」などの講演会を取り入れ、心の成長を目指した。

また、教員対象の「人権教育」研修会、私学人権教育研修会への派遣や中高全クラスで研究授業を実施した。

支援を必要とする生徒には、サポート室を開設するとともにスクールカウンセラーを配置し対応した。

(6) 部活動

10の運動部と1つの文化部が全国大会に出場した。

なお、部活動だけでなく学びも大切にすべく学習サポート授業を昨年度に引き続き実施した。

(7) 施設設備の改善と充実

温水プール機械設備の取り替えや職員室の改修工事を行った。

2 人事計画の実績

本務教員は計画対比1名増の73名(期限付講師5名を含む)、兼務教員は計画対比2名増の16名であった。

本務職員は計画通りの5名(本部職員1名を含む)、兼務職員は計画対比3名増の16名であった。

3 その他の事業実績

南海地震対策及び防災教育

生徒の防災意識を高めるために、防災通学路調査シートを作成させた。自宅から学校までの通学路における危険な箇所や地震、津波が発生したときの緊急避難場所などを確認させ、それを防災通学路調査シートとして学校用と自宅用の2枚作成させた。これにより生徒の防災意識の向上と緊急時の生徒の居場所の確認に利用できるようになった。また、7月に防災教育を行うとともに、12月には緊急地震速報の訓練と併せて本校の避難訓練を実施した。

緊急時の食料と水の備蓄は全校生徒1日分を確保するとともに、防災シートも全校生徒分を確保した。

[3] 高知小学校

1 事業の概要

教育方針である「紳士・淑女（まごころをつらぬく子）の育成」にそって、日々の教育実践に努め、高知小学校が目指す子ども像（勉強にうちこむ子、仲良く助けあう子、ねばり強い子、ゆたかな心の子）を具現するために、指導目標、重点目標として次のことを掲げる。

(1) 「指導目標」

- ① 児童の安全確保を最優先とし、指導の 2 本柱である「確かな学力の定着」「しつけ指導の徹底」を推進する。
- ② 積極的な学習態度を養うとともに、一人ひとりの個性や可能性を尊重した指導を行う。進学指導の強化・充実を図る。
- ③ 教職員の資質・指導力向上を図り、児童の意欲を引き出す教育実践に努める。全教職員が全児童を把握した上で指導に当たる。
- ④ 幼・小・中高連携教育を推進する。

(2) 「重点目標」

- ① 子どもの夢と希望を叶え、保護者の期待に応える学校をめざす。確かな学力の定着としつけ指導の徹底を図るため、1 時間 1 時間の授業を大切にし、その質の向上に努める。
- ② 教員の資質・指導力向上に向けた研修の充実を図る。教員個々が自己研修による指導力向上に取り組む。外部講師招聘による校内授業研究会を開催する。
- ③ 児童募集活動の見直しと強化を図り、募集定員確保に努める。
- ④ 登下校及び学校生活における児童の安全確保に努める。
- ⑤ 総合学園として小学校の位置づけのなかで、幼・小・中高連携教育を推進する。（幼稚園からの入学、中学校への進学に視点をあてた連携教育に取り組む。）また、小学校の特色である英語教育の見直しと充実を図る。

2 事業の実績

(1) 日々の授業の充実と学力の向上・定着を図る取組

- ① 本校創立以来継続している英語教育において、ネイティブ教員とのチームティーティング体制は、2 年目を迎え授業内容が充実してきた。6 年生の英語発表も、昨年度の発表を聞いた子どもたちは、創意工夫を重ねて意欲的な発表ができるようになってきた。6 年間の学習の集大成としての意義が高まるとともに、聞く方も発表する方もともに学びあうことができた。
- ② 県版学力テストの実施及び結果分析により、算数・国語・理科における児童の学習状況を把握し、学力の定着と向上へ向けての取り組みを強化した。
- ③ 全学年で、10 分間の計算テスト、漢字テストを行い、基礎学力の定着を図った。パーフェクト賞（100 点）を設定していることが、取り組みの励みとなっている。
- ④ 5 年生は学期末テスト、6 年生は毎月実力テストを実施し、理解度・学力を確認するとともに、補習等を通して理解の定着を図った。実力テストは、中学校進学へ向けての大切な指標ともなり、目指す中学校入試へ向けての意欲づけになっている。

⑤ しつけ指導については、児童手帳「わたしたちのきまり」を基に週目標を設定して、全教職員で共通理解を図りながら指導した。

(2) 教員の資質・指導力向上に向けた研修の充実

① 全員が年間を通して 1 回の研究授業を行い指導力アップに繋がった。また、国語科を中心に、「聞く・話す」のコミュニケーション力の育成をテーマとした研究を深めてきた。講師招聘による低・中・高学年での全校授業研究会を開催した。

② 市教研、土佐教育研究会に加わり、各教科別に研究会に参加した。特別に支援を要する児童への取り組みとして、リハビリテーション学院の先生を講師として招聘し、支援会議を持った。具体的な指導方法を学び、実践に繋げることができた。総合学園としての連携教育として、今後も継続して取り組んでいきたい。

③ 西日本私立小学校研修会に参加し、音楽科、国語科の部会で学んできたことを、日々の授業実践に繋がった。

④ 一昨年度から、本校の研究主題に迫る取り組みの一環としてNIE教育(新聞を活用した教育)に取り組んでおり、全国大会秋田大会に参加して研修を深めた。研修内容を参考にしながら、各学年の実践に繋がった。

(3) 学習や生活面での充実を図るための支援体制の確立

① スクールカウンセラーは、週 8 時間(火曜日と木曜日に各 4 時間)体制での 4 年目を迎え、児童・保護者・教員が毎回相談をしており、悩みの解決や児童の学習・生活面での意欲向上に大きく寄与している。特に友人関係での相談が多く、相談内容についてカウンセラーと担任が話し合うことで、早い段階での課題解決に繋がっている。

② 特別に支援を要する児童については、個別支援シートに基づいて、定期的に支援会議を開催した。具体的な指導方法を話しあうとともに、支援員が学級に入って支援を行うことで、子どもの変容に繋がった。

③ 心身ともに健康な体をつくるためには、基本的な生活習慣が大切であることを全校集会や学級指導で訴えるとともに、日常の学校生活の中で人に迷惑をかけないことや嫌がることをしないこと、思いやりを持って友達に接すること等を繰り返し指導した。また、明るく元気に学校生活を送ること、ものごとの良さや美しいものに感動することについても機会あるごとに伝えた。

④ QU アンケート(楽しい学校生活を送るためのアンケート)を年間 2 回(1 年生は 1 回)実施し、子どもたちの「やる気」や「学級内での居場所があるか」等を分析・検討して、よりよい学級集団づくりに繋がった。

職員会で、分析・検討結果と取り組みを話すなかで、子どもの変容に至る指導過程が明らかとなり、他の学級での指導に役立つ提案がされるようになった。また、日々の生活の中で、いやなことがないかを問う「きみのことおしえてシート」を学期毎に実施して、友だち関係での課題の早期発見・早期解決に努めた。書くことによる訴えを聞き、深刻に悩む前に解決していく手だてとしている。また、子どもの心のサインを見落とすことがないように、子どもへの声かけや家庭への連絡を密に行い、いじめやトラブル等の未然防止に努めた。

(4) 登下校及び学校生活における児童の安全確保

① 登下校時の安全確保の観点からスクールバスを利用する児童が多い為、4 台運行体制を継続

した。また、1・2年生を対象とした交通安全教室や全校児童対象の乗り物別指導を行い、登下校中の安全指導を行った。

- ② 緊急時の対応として、全校で地震・津波を想定した避難訓練を行った。緊急時の備蓄食料として飲み水と乾パンを購入した。(毎年購入)
- ③ 学期に1回、校舎内外に危険場所がないかを点検し、安全確保に努めた。

(5) 総合学園の中の小学校としての幼・小・中高連携教育の推進

- ① 幼小連携教育では、各学年と園児が有意義な交流ができるよう年度始めには年間計画を見直し、年度末には反省会で成果と課題を出し合うことで次年度につなげている。1年生と年長児と一緒に英語を学んだり、お弁当を食べたりの活動を通して小学校生活への期待感を育てるような交流も取り入れている。
- ② 小・中高連携教育では、年間を通して定例会を開催し、交流が深まるように話し合っ、児童・生徒が一同に会して交流できる機会を多く持つようにした。(中学校での部活見学、運動会での応援練習、吹奏楽部の小学校での演奏会、水泳・陸上・バスケット等での合同練習)。中・高校生の持つ技量の素晴らしさにふれることで、中・高で学ぶことへの意欲を育て、中学校への進学児童の増大に繋げていきたい。

3 募集活動

- (1) オープンスクール・後期学校説明会や新聞広告、園訪問や体験入学、また RKC 主催のイベント「すこやか 2015」や学園全体としてのイベント「GAKUEN フェスタ」に参加するなどして募集活動に努めた。
- (2) 基礎学力の定着と向上に向けた学習指導、きめ細かな生活指導を継続することで、保護者の信頼を得て、高い学校評価に繋がるように努めた。
- (3) 子どもたちが生き生き活動している様子や本校の特色ある取り組みを広くアピールする為、ホームページと学校案内のリニューアルを行った。
 - ① ホームページでは、学校行事等日々の子どもの様子リアルタイムで掲載でき、保護者からも好評を得ている。
 - ② 高知幼稚園からの入学者は、6名(前年度9名)と減少傾向にあり、幼小のより良い連携のあり方を探り、小学校の取り組みを広くアピールしていく必要がある。
 - ③ 28年度入学児童の選考においても、オープンスクール参加者、学校見学者の出願率が高かった。日常の学習や生活の様子を直接参観して、学習に取り組む意欲や姿勢、積極性などが、評価されたものと思われる。保護者の評価は教員の指導力や取組姿勢と密接な関係があるので、さらに教員の指導力・資質の向上に努めたい。
 - ④ オープンスクール参加者や学校訪問者の中で、出願の無い方については園訪問や電話での確認、また、後期の募集案内を持参する等の募集活動を行った。

4 人事計画

- (1) 全学年2クラスであり、合計12クラスであった。
 - ① 本務教員は18名、兼務教員は8名であった。
本務教員(学級担任12名、音楽専科1名、英語専科1名、TT教員1名、養護教諭1名、

教頭 1 名、校長 1 名)

兼務教員 (理科 1 名、書写 2 名、図工 1 名、習い事 3 名 (英会話 1 名、ピアノ 2 名)

算数 TT 1 名)

- ② 本務職員は 1 名、兼務職員は、5 名であった。
- ③ 英語、英会話 (習い事) は、AZ-HOUSE (元 旭英会話教室) より派遣。

5 教育・研究実績

(1) 児童のために実施した諸計画

- ① 読み書き・計算の強化 (全校漢字・計算テスト)
漢字・計算を年間 13 回実施した。
- ② 朝の読書、保護者による読み聞かせ
- ③ 美術館・商店・工場見学
高知県立美術館 3~6 年生が見学。香美市美術館見学。
2 年生、木曜市見学。3 年生公民館、消防署見学。
- ④ 防災学習、避難訓練
学園合同避難訓練を計画したが、雨天の為中止となり、小学校独自で開催。
- ⑤ 校内植物教室や舞台芸術の鑑賞、映画教室の開催
- ⑥ 高知幼稚園との交流学习
- ⑦ 学習発表会、6 年生を送る会、合格おめでとう会
- ⑧ TT の継続 (全学年で算数において実施)
- ⑨ 班毎にテーマを決めて、各学級を回って英語発表 (6 年生)
- ⑩ 「こども高新」投稿
昨年度から NIE 教育に取り組んでいることから、高学年からの投稿回数も多くなっている。

(2) 児童が受賞したコンクールや作品展、大会

- ① 平成 27 年度こども小砂丘賞、第 65 回全国小中学校作文コンクール
- ② 第 66 回こども県展
硬筆 (推薦 1、特選 26) 毛筆 (こども県展賞 1、推薦 1、特選 11) 条幅 (推薦 1)
図画 (推薦 1、特選 16)
この成績により、県知事賞 (2 年連続、5 回目)、図画優秀校、毛筆優秀校、硬筆最優秀校を受賞した。
- ③ 高知県統計グラフコンクール (指定校)
- ④ 高知市学童水泳記録会・陸上記録会、バスケットボール交歓会
- ⑤ 第 91 回毛筆コンクール、平成 27 年度 JA 共済書道コンクール、第 31 回土佐和紙書初め大会、第 44 回学生書道コンクール
- ⑥ 第 25 回「こんな町に住みたい」図画コンクール、第 34 回動物愛護絵画展
歯・口の健康に関する図画コンクール、第 25 回 MOA 美術館高知児童作品展
- ⑦ 第 61 回青少年読書感想文コンクール
- ⑧ 第 50 回高知県美術教育総合展
- ⑨ 第 68 回高知市科学展覧会、第 16 回社会科自由研究作品展

⑩ 夏休み学習旅行招待児童作品展

図画の部で1名、作文の部で1名、合計2名が招待。

5 施設設備の改善と充実

- (1) 校舎及び周辺整備を行った。通学バス駐車場の拡張工事を行った。
- (2) 備品の整備を行った。児童用下駄箱（1・4・5・6年生用）を新設した。
緊急地震速報システムを導入した。

[4] 高知学園短期大学附属高知幼稚園

1 事業の概要

(1) 基本方針

幼児期に大切な五感を通じた体験学習を取り入れ、幼児自ら気づき、考え、行動することのできる「生きる力」の基礎を養うと共に、心身ともに健康でたくましい子どもを育成する。

めざす子ども像・・・たくましい子・思いやりのある子・よく考える子

(2) 重点目標

- ① 園児は五感を通じた豊かな体験をする。
- ② 教職員は実践的な研修・資質向上に努める。
- ③ 地域や家庭、学園内組織との連携をして豊かな体験をする。

上記の基本方針・重点目標は、概ね達成され、継続を必要とすることについては日々努力している。

2 事業の実績

(1) 募集実績

- ① 園開放「あそびにおいでよ」（毎週水曜日）の充実を図った。（110名中17名入園）
・未就園児だけの運動会（10月17日（土））を開催した。
- ② 年3回体験入園説明会を実施した。
【平成27年9月26日（土）、11月11日（水）、平成28年1月27日（水）】
- ③ ホームページ・ブログの充実を図り、園の様子を紹介した。
- ④ 募集チラシを配布、掲示した。（商店、新聞、家庭など）
- ⑤ 夏季・冬季・春季休業中の預かり保育（月単位・1日預かり）を実施した。
- ⑥ 短期大学との連携を継続した。（歯磨き指導・健康教育・クリスマスケーキ作り・夏期休業中のボランティア・リズム遊び・学園祭・等）
- ⑦ 学園内連携の強みを対外的にアピールした。（Gakuen Festa 2015）
- ⑧ 子育て応援団 すこやか2015に参加し、園児の発表や園紹介をした。
- ⑨ RKC子育て応援団に協賛し、キャンペーンCMを流す。（TV、ラジオ）現在も継続中。

3 人事計画

4月当初から7クラス編成（満3歳児）となる。園長を含め本務教員5名、兼務教員8名（時間講師3名を含む）兼務職員3名、計16名で担当した。

4 教育・研究実績

(1) 教職員の資質向上

- ① 文献（幼稚園教育要領の五領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現））を研究し、教育内容を検討して保育の質を高めた。
- ② 研究保育、研究協議を行い、園内事例研修の場を持った。

- ・各職員が園内研修（園内の職員で保育を参観しあい、その後協議をする）を行った。
- ・事例研修協議を行った。
- ・本年度の研究テーマについて、年度末に1年のまとめとしてレポートを作成した。

③ 研究会・研修会への参加

- ・私立幼稚園連合会夏季研修会、幼児教育研究協議会に参加し、保育の質を高めた。
- ・新採研修、ミドル研修等に参加し、資質向上に努めた。

(2) 学園内組織との連携

高知学園短期大学幼児保育学科や生活科学学科、医療衛生学科、高知リハビリテーション学院言語療法学科、中学高等学校との連携を密にすると共に、高知小学校とのきめ細かな連携を深め幼児教育の連携を推進した。

① 幼児保育学科との連携

- ・毎週金曜日リズムの指導（年少～年長）
- ・教育実習（H27.6.1～6.26）実施
- ・観察実習（H28.2.15～2.27）実施

② 生活科学学科との連携

- ・クリスマスケーキ作り（H27.12.22）実施

③ 医療衛生学科との連携（歯科衛生専攻）

- ・学生による歯磨き指導を実施（H27.5.26）

④ 各学科との健康教育の実施（H27.6.20）

⑤ 高知リハビリテーション学院との連携

- ・園児が訪問し、学生と交流実施（言語療法学科）（H27.10.19、10.26）
- ・園児の体力測定を行った（理学療法学科）（H27.9.24）

⑥ 中学・高等学校との連携

- ・中学校運動会に参加した。（H27.9.20）

⑦ 短大学園祭に参加した。（H27.10.24）

⑧ 幼小連携を強化し、活性化を図った。

- ・1～6年生の各学年と交流
- ・7月25日「すこやか2015」でのステージ発表
- ・10月4日小学校運動会への参加
- ・11月13日14日小学校発表会への参加
- ・11月26日5年生による誕生会での発表
- ・年度末に交流のまとめの冊子作成をした。

(3) 異年齢保育の取り組み

グループでの遊び等を通して人間関係を持ち、思いやりの心を育てるように取り組んだ。

- ・学園内の散歩、栽培活動、縦割りお弁当給食、焼き芋等

5 その他

(1) 交通安全、避難訓練（地震、火災、水害）、防犯訓練等を継続的に行い、安全確保に努めた。

- ・交通安全教室・防犯訓練（H27.11.25）実施

- ・避難訓練の実施（毎月）
 - ・東日本大震災から5年が経過し、生命の大切さを改めて知らせた。
- (2) 地域とのかかわり
- ・運動会、バザー・作品展、表現発表会等のポスターを渡し、見に来てもらった。
- (3) 施設設備の改善と充実
- ・園庭遊具（森の機関車）老朽化に伴い、くまさんシップ・ホールにクライミングウォール設置
 - ・職員玄関前の改修
 - ・仲良し広場門扉・差し掛け完成

[5] 高知リハビリテーション学院

1 重点目標と取り組み

医科学の進展に対応していくことができる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を教育・養成していくため、重点目標を定め、次の通り取り組んだ。

[主要な項目と取り組み]

(1) 先進・進取の教育の推進

国の社会保障政策を見据えた授業科目の設定、医科学の進展に合わせた実習や演習の展開を図るとともに、教員の教授力の向上、資質を磨く研究活動の推進に努めた。

教育環境の面では、養成機関では初となる最先端の人工モデルを用いた擬似疾患教育機器からなる臨床技能学習システムの導入を図るなど、新たな教育手法の開拓と展開に努めた。

(2) 目的意識を持つ学生の確保

県内外の学校訪問や出前講座の開催、また、県内高校進路指導教員を対象にした学校説明会には25校(31名)の出席を得た。オープンキャンパスは年間5回開催するとともに、高校をはじめ各地での進学相談会といった取り組みを積極的に推進した。この中では、高齢化の進展と地域包括ケアといった社会の趨勢とリハビリテーションの重要性、療法士の役割など職業観の醸成と浸透に努めた。とりわけ、オープンキャンパスでの体験授業をはじめとした学校ガイダンスには、力を注いでおり、平成27年度は、554名の来校者を数えた。平成28年度の入学者は、145名となった。

(3) 有為な人材の育成

高度な技能の習得に欠かせない先端医科学の教育機器の導入を促進するとともに個人学習プログラムに基づく学生教育を進めるなど、一人ひとりと向き合った指導育成に努めた。

高知高校とのフェローシップ(10名)による一貫した人づくりを推進し、基礎的医療知識の修得と職業観を持った学生リーダーの育成を図った。

国家試験については、平成26年度を上回る101名(新卒)の合格者であったが、全体では、全国平均を切る合格率であったことから徹底した対策を講じていく必要があるため、基礎専門教科の習熟度の評価をはじめ1年次から全学科あげての対応を進めている。

2 教育研究に関する取り組み

(1) 学生のスキルアップ

補講や休暇を活用した授業などにより、基礎学力の向上を図るとともに、専門知識、技能の習得に必要な基礎教科の重点指導に努め、スタディースキル(学習技能)をアップさせていく取り組みを進めた。

また、療法士に不可欠なコミュニケーション能力の向上、社会人としての礼節、至誠心といったソーシャルスキル(対人的技能)をアップさせていくため、専門家を招へいた教育指導や実践研修を推進した。

(2) 教員の研鑽、研究活動の促進

教員の資質の向上を図っていくため、教授法などに関する専門研修や教育研究大会などへの派遣といった取り組みとともに、教員と臨床現場との意見交換会を開催するなど、最前線の情報収集と技術力の向上などに努めた。

また、学会などを通じ、研究活動の成果の発信に努めた。

(論文掲載 17 件、学会発表 22 件、著書 1 件)

全国の臨床実習受入施設の責任者を招へいし、専門的知見や技術、情報等を交換する指導者協議会には 215 名 (198 施設) が参加、リハビリテーション現場で直面する課題などに対する討議と分科会での検討も行った。

3 学生募集に関する取り組み

(1) 専願による学生の確保

専願で定員の 8 割の学生の確保を図るため、学校訪問や進路相談会、出前講座の開催といった取り組みを重点的に推進した。高知高校とのフェロシップによる学生(入学 10 名)を含め、平成 28 年 4 月の入学生では、8 割を超える 124 名が専願での入学となった。

入試では、このほかに一般推薦、社会人選考などを行い、145 名の学生の入学となった。(指定校推薦なども含め、平成 28 年 4 月の高知高校からの全入学者 20 名)

(2) 学校訪問や進路相談会などの開催状況

学校訪問専門の職員を配置し、県内高校については、原則、毎月 1 回、四国 3 県についてはオープンキャンパスや入試前に重点的に訪問し、進路担当教職員との面談、情報提供などに努めた。

進路相談会については、県内はもとより中四国各地でも開催しており、高校主催のものも合わせると 60 回(654 名受付)行った。平成 27 年度は 40 名の県外高校(9 都道府県)からの学生が在籍している。(平成 28 年 4 月入学は県外 6 名。)県内高校の進路指導教員を本学院に招へいして行った説明会には 25 校(31 名)からの参加を得た。

オープンキャンパスには 554 名が来校。平成 23 年度から年 5 回開催してきており、その内容も医療知識の修得と職業観の醸成につながる体験型のものを中心に行っている。

4 就職に関する取り組み

教職員一丸となり新規開拓、情報収集等を行うため施設訪問を重ねるとともに、10 月には本学院で就職合同説明会を主催、県内外の 63 施設の人事担当者と学生が直接面談する場を設けるなど、引き続きの全員就職に向け取り組んだ。

総求人件数は 2,429 件、その求人数は 7,848 名に上り、就職希望者 123 名のうち、年度内には 122 名(県内に 73 名、県外に 49 名)の就職が内定した。

5 教職員の状況

人事計画では本務教員 30 名、兼務教員 86 名、本務職員 12 名(うち、本部職員 3 名)、兼務職員 10 名としていたが、本務教員は 29 名(平成 28 年 4 月 1 日で 1 名採用し、30 名)、兼務教員は 76 名となった。本務職員と兼務職員数に変更はなかった。